

信州の伝統的工芸品

小沼箒

長野県指定伝統的工芸品 平成31年3月22日指定



小沼箒の概要

明治初年からほうきの生産が行われていました。

豪雪地帯である飯山市では、冬期間の副業として盛んになりました。

昭和20年(1945)代から30年(1955)代に最盛期となり、ひと冬に3万本以上を生産していました。しかし、住宅様式の変化や電化製品の普及により、生産量は著しく減

少ししました。

現在は、平成30年(2018年)に発足した「小沼ほうきを守る会」が小沼ほうき振興会と名称変更して、積極的に生産と販売を進めています。

スキー場のリフトや旅館などで愛用されているとともに、学校の授業でも取り入れられ、地域ぐるみで生産と販売を進めています。

【主要産地】

飯山市



◆玉つくり



◆寄せ・編み込み



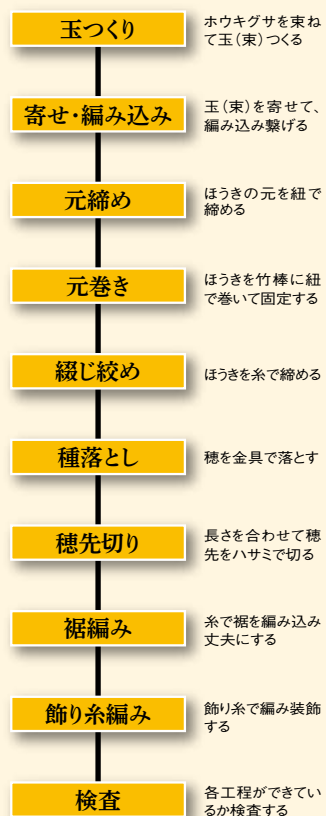
◆元巻き



◆穂先切り



【製造工程】



技

見えないところを丁寧に

小沼箒の原材料は、地元で生産しているホウキグサです。刈り込みをした後、乾燥させることにより、良質なほうきが生産できます。

幅のあるほうきの場合は、寄せ・編み込みの際に、かんざし(竹の棒)を横向きに刺すことにより、掃きやすく長持ちするほうきができていきます。見えないところも、丁寧にきっちりと生産している小沼箒です。



小沼ほうき振興会

〒389-2414 長野県飯山市大字常盤5799
TEL0269-62-0274

